


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2023年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	小島祥太郎	会員番号	0037406	
申請者の所属・職名	千葉大学医学部附属病院 アレルギー・膠原病内科 医員			
出席会議名	European Congress of Rheumatology (eular 2023)			
発表論文タイトル	Immunogenicity and safety of adjuvanted recombinant zoster vaccine in patients with rheumatoid arthritis treated with disease-modifying anti-rheumatic drugs			

実施結果:

このたび、2023年度前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award を賜り、2023年5月31日～6月3日にイタリア・ミラノにて開催されました欧州リウマチ学会, European Congress of Rheumatology (eular 2023)に参加させていただきました。岸本忠三先生および選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

リウマチ学分野における世界最大規模である本学会には世界中の著名な研究者が参加されました。各国・各分野の研究者の方々と直接交流する機会を得て、世界最先端の研究内容に触れることができ、大変貴重な経験を得ることができました。

私は Poster view presentation において、抗リウマチ薬(DMARDs: disease-modifying anti-rheumatic drugs)治療中の関節リウマチ患者における不活化帯状疱疹ワクチン(RZV: recombinant zoster vaccine)の免疫原性についての探索的前向き研究の成果を発表させていただきました。

帯状疱疹の発症には水痘・帯状疱疹ウイルス(VZV: varicella zoster virus)特異的細胞性免疫が深く関わっていることが広く知られていることから、被験者の末梢血単核球を採取し、フローサイトメトリーおよび ELISPOT を用いてVZV特異的T細胞を検出することによって、RZV 接種前後における被験者のVZV 特異的細胞性免疫応答を評価しました。また、抗VZV IgG抗体価測定によって液性免疫の評価を併せて行い、RZVによって誘導されるVZV 特異的免疫応答を評価しました。それに加えて、関節リウマチ疾患活動性変化やワクチン副反応のモニタリングを行い、ワクチン接種の安全性についても評価を行いました。その結果、RZVはDMARDs使用中の関節リウマチ患者においても細胞性免疫応答および液性免疫応答を誘導し、安全に投与可能である可能性を見出し、報告致しました。

光栄なことに、私の発表内容について多くの研究者の方々に興味を持っていただき直接議論を行う機会を得ることができ、大変有意義な経験となりました。関節リウマチの診療において感染症のマネジメントは非常に重要であり、予防戦略の異なる各国の研究者と議論を行うことはなかなか得難い貴重な経験となりました。

Tadimitsu Kishimoto International Travel Awardのご支援をいただいたことにより、このように素晴らしい経験をさせていただくことができ、心より感謝申し上げます。今回の経験を活かし、今後のリウマチ学・免疫学の発展に、より一層尽力して参りたいと思います。